

2 検証事項

2-3 ひび割れ抑制対策の実施状況

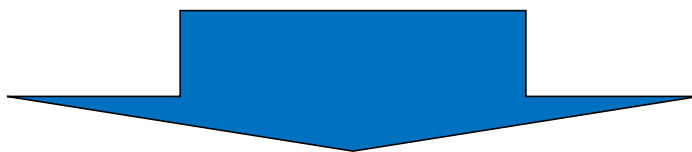
■ガイドライン（案）に基づく数値基準での施工について

新潟県コンクリート施工記録入力フォームに登録されたデータ
（今回の検証対象分）

構造物 種類	基数	件数	ひび割れ抑制対策	
橋台 たて壁	27 基	41 件	ガイドライン（案）	16 件
			温度応力解析	17 件
			検討なし	3 件
			不明	5 件
橋脚 柱	14 基	19 件	ガイドライン（案）	3 件
			温度応力解析	16 件

温度応力解析の採用が多く、ガイドライン（案）の採用実績が少ない

⇒ガイドライン（案）（鉄筋比0.3%）の妥当性を評価できない



今後は、温度応力解析を実施せずにガイドライン（案）に基づくひび割れ抑制対策を義務化（試行）し、採用実績を増やす必要がある

橋台たて壁・橋脚柱 鉄筋比0.3%を遵守

<参考>

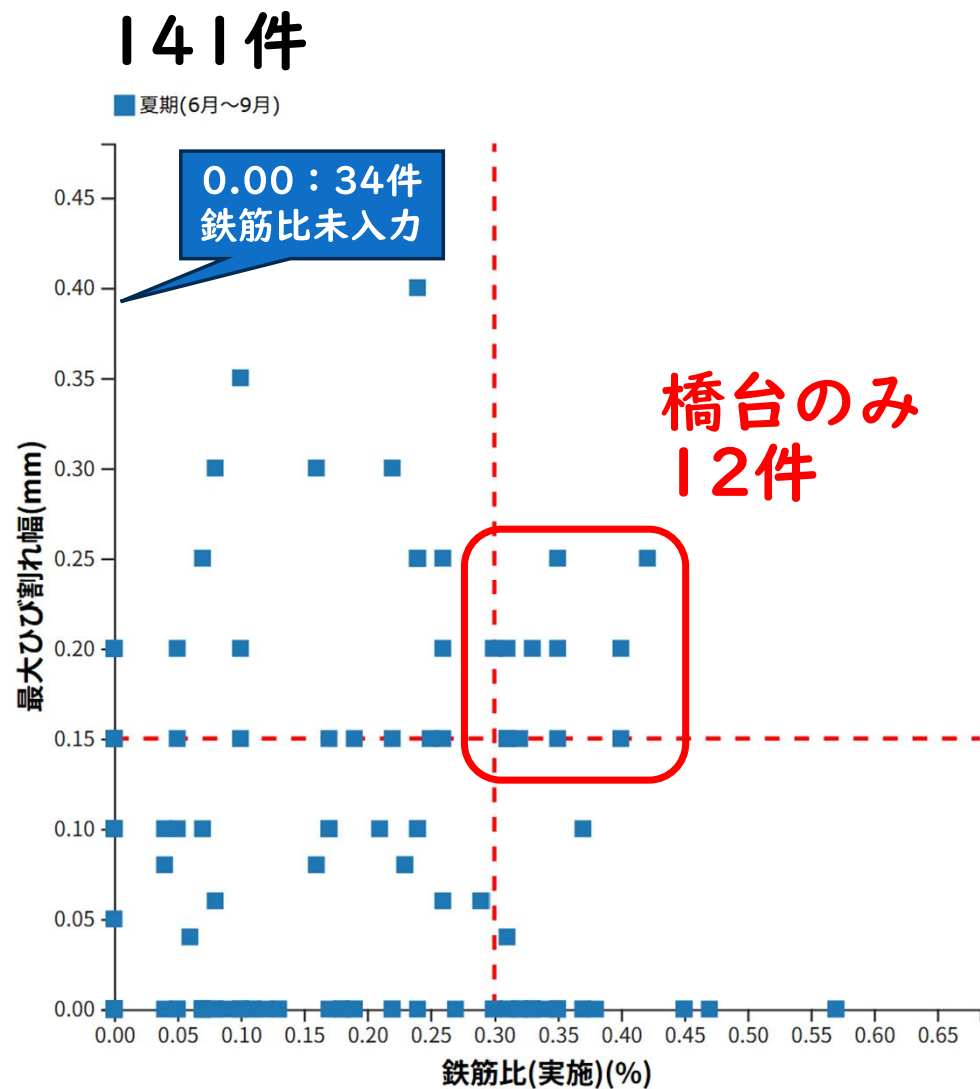
■山口県

- ・平成17～18年度の試行では、打込み時のコンクリート温度が高いとひび割れ発生確率が高い傾向。
- ・夏期施工で1年以上経過後にひび割れが確認された事例あり。外気温の高い時期に硬化したコンクリートほど、外気温の低下に伴い収縮量が大きくなり、ひび割れが発生することが想定される。



打ち込みを避けることが望ましい時期

6月～9月



■新潟県

積雪寒冷地であるため、
夏期施工が避けられない。

令和8年度施工の指定工事に限り、
ひび割れが発生した場合の補修費は県が負担